

平成26年

火災・救急活動の概要

高槻市消防本部

1 火 災

(1) 火災件数と出火率

火災は61件の減少

平成26年中に高槻市内で発生した火災は50件で、前年の111件と比べ61件の減少となった。

出火率（人口1万人当たりの出火件数）は1.4で、全国平均（平成25年中）3.7と比べ2.3ポイント低い。

(2) 火災種別

建物火災が約半数を占める

平成26年中の火災件数のうち建物火災が27件で、全火災の約半数を占めており、そのうち住宅火災（併用住宅及び共同住宅を除く）が11件であった。

※件数割合の%は小数第2位を四捨五入

建物火災	27件（54.0%）
林野火災	0件（0.0%）
車両火災	7件（14.0%）
その他の火災	16件（32.0%）

(3) 焼損面積

焼損面積は増加

建物火災は27件で前年の49件から22件減少したものの、焼損床面積は910平方メートルで、前年の342平方メートルに比べ増加となった。

焼損表面積は6平方メートルで、前年の38平方メートルに比べ減少している。

(4) 損害額

損害額は増加

平成26年中の損害額は99,279千円で、前年の57,460千円から比較すると41,819千円の増加となった。

1件当たりの損害額は1,986千円で、前年の518千円より1,468千円の増加である。

※損害額の整数第3位を四捨五入

(5) 火災による死傷者

死者は1名、負傷者は微増

平成26年中の火災による死者は1名（前年0人）発生、負傷者は12人（前年11人）であった。

また、負傷者12人のうち、重症者は3人（前年0人）、中等症者が3人（前年2人）、軽症者が6人（前年9人）である。

(6) 原因別に見た火災発生状況

平成26年は「放火（疑いを含む）」が1位に

ア 平成26年中の全火災（50件）を出火原因別にみると以下のとおりである。

※件数割合の%は小数第2位を四捨五入

放火（疑い5件を含む）	14件（28.0%）
こんろ	6件（12.0%）
たばこ	5件（10.0%）
火あそび	3件（6.0%）
ストーブ	3件（6.0%）
配線器具	2件（4.0%）

衝突の火花	2件 (4. 0%)
焼却炉	2件 (4. 0%)
その他	9件 (18. 0%)
不明・調査中	4件 (8. 0%)

イ 建物火災 (27件) を原因別にみると以下のとおりである。

※件数割合の%は小数第2位を四捨五入

放火 (疑い3件を含む)	7件 (26. 0%)
こんろ	5件 (18. 5%)
ストーブ	3件 (11. 1%)
配線器具	2件 (7. 4%)
たばこ	1件 (3. 7%)
火あそび	1件 (3. 7%)
その他	6件 (22. 2%)
不明・調査中	2件 (7. 4%)

(7) まとめ

火災件数は、大幅に減少したものの、従前に引き続き地域住民等に対して防火意識の高揚を図り、より一層の火災予防に取り組む必要がある。

平成26年中の火災は、50件で前年の111件に比べ61件減少している。

火災種別でみると、建物火災が27件で前年より22件減少したが、焼損床面積や損害額は前年より増加している。

火災による死者は1名、負傷者は12人で、それぞれ前年より1人ずつ増加している。

出火原因は、「放火 (疑いを含む)」が14件で1位、「こんろ」が6件、「たばこ」が5件と続いている。

「放火 (疑いを含む)」は、前年の27件から約半減し14件で、消防、警察、自治会、自主防災組織、事業所等が取り組んできた「放火されにくい地域環境作り」が実を結んだ結果と考えられる。

しかし、出火原因の多くの割合を占めているため、今後も放火撲滅に向け積極的な対策を継続していかなければならない。

平成26年火災概要（対前年比）

区 分	単位	平成26年 (A)	平成25年 (B)	増減 (C) (A)-(B)	増減率 (%) (C) / (B) ×100		
出火件数		50	111	△61	△55.0		
建物火災	件	27	49	△22	△44.9		
林野火災		0	2	△2	△100		
車両火災		7	7	0	0		
その他の火災		16	53	△37	△69.8		
焼損棟数			36	52	△16	△30.8	
全 焼	棟	5	3	2	66.7		
半 焼		1	1	0	0		
部分焼		3	11	△8	△72.7		
ぼ や		27	37	△10	△27		
焼 損 面 積	建 物	床面積	m ²	910	342	568	166.1
		表面積	m ²	6	38	△32	△84.2
		林 野	a	0	2	△2	△100.0
死者	人	1	0	1			
負傷者	人	12	11	1	9.1		
り災世帯		24	35	△11	△31.4		
全 損	世帯	6	5	1	20.0		
半 損		2	2	0	0		
小 損		16	28	△12	△42.9		
り災人員	人	61	74	△13	△17.6		
損害額		99,279	57,460	41,819	72.8		
建物	千円	78,002	54,100	23,902	44.2		
林野		0	6	△6	△100.0		
車両		19,112	3,010	16,102	535.0		
その他		2,165	344	1,821	529.4		
出火率		件	1.4	3.1	△1.7	△54.8	
年	平成26年			平成25年			
主な火災原因	1	放火（疑いを含む）	14件	1	たばこ	28件	
	2	こんろ	6件	2	放火（疑いを含む）	27件	
	3	たばこ	5件	3	こんろ	10件	
	4	火あそび	3件	4	たき火	7件	
	4	ストーブ	3件	5	配線器具	5件	

過去5年間の火災状況

区分		年別	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
火災件数			101	89	120	111	50
内 訳	建 物		50	50	43	49	27
	林 野		3	3	5	2	0
	車 両		10	12	10	7	7
	その他		38	24	62	53	16
	爆発（再掲）						
焼損棟数（棟）			77	70	49	52	36
内 訳	全 焼		9	9	3	3	5
	半 焼		2	3	0	1	1
	部分焼		14	17	8	11	3
	ぼ や		52	41	38	37	27
焼損面積	建 物	床面積（㎡）	1,407	1,144	1,460	342	910
		表面積（㎡）	197	281	44	38	6
	林 野（a）		2	13	10	2	0
り災世帯（世帯）			78	51	43	35	24
内 訳	全 損		13	8	14	5	6
	半 損		13	8	3	2	2
	小 損		52	35	26	28	16
り災人員（人）			196	128	93	74	61
損 害 額（千円）			222,002	96,038	192,695	57,460	99,279
内 訳	建 物		217,382	90,506	173,087	54,100	78,002
	林 野		0	0	0	6	0
	車 両		2,060	5,087	15,113	3,010	19,112
	その他		2,560	445	4,495	344	2,165
死 者	48時間（人）		6	2	2	0	1
	30日（人）		0	0	0	0	0
負 傷 者（人）			25	20	20	11	12
覚 知 別 件 数			101	89	120	111	50
内 訳	火災報知専用電話（119）		56	58	67	69	23
	加 入 電 話		1	3	2	2	1
	警 察 電 話		2	3	11	4	3
	事 後 聞 知		38	23	36	32	19
	そ の 他		4	2	4	4	4

2 救 急

(1) 救急出場件数

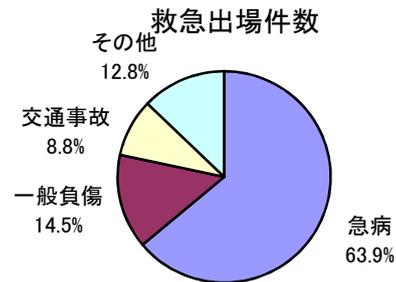
◎ 出場件数は減少

平成26年中の救急出場件数は18,458件で前年18,598件に比べ140件(0.8%)減少した。

また、1日平均にすると約51件、約28分に1回の割合で出場したことになる。

出場件数を事故種別毎にみると、第1位が急病で11,794件(63.9%)、第2位が一般負傷2,672件(14.5%)、第3位が交通事故1,631件(8.8%)の順となっている。(右図参照)

そのうち、特別救急隊の出場件数は470件であった。



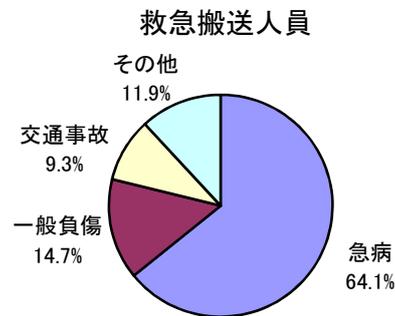
(2) 救急搬送人員

◎ 搬送人員は増加

平成26年中の搬送人員は16,811人で、前年16,769人に比べ42人(0.3%)増加した。

また、1日平均約46人、市民の約21人に1人が救急車で医療機関へ搬送されたことになる。

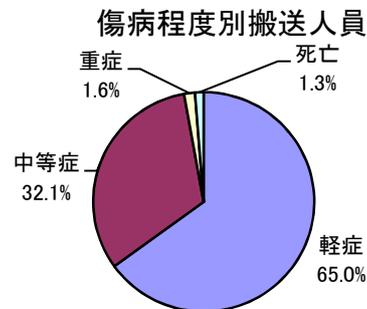
搬送人員を事故種別毎にみると、第1位が急病で10,783人(64.1%)、第2位が一般負傷2,472人(14.7%)、第3位が交通事故1,562人(9.3%)の順となっている。(右図参照)



(3) 傷病程度別搬送人員

◎ 軽症患者は10,927人

平成26年中の搬送人員16,811人を傷病程度別にみると、軽症(傷病の程度が入院加療を要しない)が10,927人(65.0%)で最も多く、次いで中等症(傷病の程度が重症又は軽症以外のもの)が5,406人(32.1%)、重症(傷病の程度が3週間以上の入院加療を要するもの)が263人(1.6%)、死亡(初診時において死亡が確認されたもの)が215人(1.3%)の順となっている。(右図参照)



(4) まとめ

◎ 応急手当普及啓発と救急車の正しい使い方をPR

平成26年中の高槻市における救急活動は、前年と比較すると、出場件数は減少したが、搬送人員は増加となった。

搬送人員を傷病程度別にみると、依然として軽症患者が多く、全搬送人員の65.0%を占めており、全国平均の49.9%(平成25年中)に比べ高い割合を示している。

このことから日常的に、更には「救急の日」等の諸行事、救命講習会・各広報媒体を通じて、応急手当普及啓発と救急車の正しい利用について、市民の方に周知徹底を図る必要がある。

救急概要

区分 事故種別		出場件数(件)			搬送人員(人)		
		26 年	25 年	増 減	26 年	25 年	増 減
合 計		18,458	18,598	△ 140	16,811	16,769	42
火 災		34	52	△ 18	11	9	2
自然災害		0	1	△ 1	0	0	0
水 難		4	6	△ 2	2	0	2
交 通		1,631	1,698	△ 67	1,562	1,691	△ 129
労働災害		134	146	△ 12	123	141	△ 18
運動競技		114	103	11	111	107	4
一般負傷		2,672	2,669	3	2,472	2,422	50
加 害		95	117	△ 22	88	102	△ 14
自損行為		222	228	△ 6	141	150	△ 9
急 病		11,794	11,718	76	10,783	10,564	219
そ の 他	転院搬送	1,521	1,588	△ 67	1,516	1,580	△ 64
	医師搬送	0	0	0	0	0	0
	資器材搬送	0	0	0	0	0	0
	その他	237	272	△ 35	2	3	△ 1

3 救 助

	火災	交通 事故	水難 事故	自然災害 事故	機械に よる事故	建物等に よる事故	ガス及び 酸欠事故	その他	合計
出動件数(件)	4	34	3	1	3	86	2	89	222
活動件数(件)	4	16	2	1	3	74	2	33	135
救助人員(人)	3	19	2	0	20	74	2	15	135

4 その他

(1) 警戒・支援出場等

区分	件数	警戒・支援等の内容
予防出場	32件	火災危険のあるもの(危険物・ガス漏洩等)
誤虚報出場	36件	火災出場したが結果誤虚報であったもの
支援出場	518件	救急等の支援活動
その他出場	282件	上記以外(怪煙調査・エンジンオイル漏洩等)
合計	868件	

(2) 応援出場

応援先	件数	応援出場の内容
島本町	39件	救急出場(特別救急隊出場29件)・火災出場
豊能町	1件	救助出場(土砂災害、府下広域応援出場)
京都市	5件	救急出場・火災出場・その他出場
合計	45件	

(3) その他の災害出場

区分	件数	その他の災害の内容
風水害出場	4件	台風11号及び台風18号

※ 表中の△印は減少もしくは負数を表す